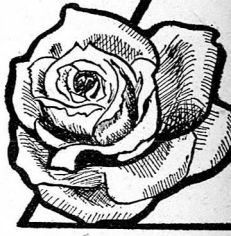


# バラの品種



いどう・けいたろ

叔父さんのすすめでバラ作りを始めて五年たった喜久枝さんも、その間に植えたバラの数も二十数種三十本くらいになり、バラ作りの腕も昨年は遂にバラ展で優勝カップをとる迄になり、今では役所のバラ作りのリーダーとして大活躍をする迄になりました。しかし、例年何本かずつ新しいバラを植えていましたが、場所が限られ、もうそろそろ植込む場所がなくなりまして、二、三本くらい新しい品種を植込もうと思いましたが、忙しい仕事の暇々にいろいろとカタログを見て計画を立てようと思いました。新しいバラもここの二年で数十種くらい出ましたのでどれがどれだかさっぱり考えがまとまらず、バラ好きの叔父さんにいろいろと相談してみようと考え、忙しい仕事もどうやら一段落した早春のある日曜

の午後、久し振りに叔父さんを訪れました。丁度叔父さんも暖い早春の陽ざしをいっぱいあびたベランダに椅子を持ちだし、バラのカタログを見ながら「さっぱり顔を見せないね、どうしたんだ。」と喜んで迎え、「なにバラの相談だって——お嫁さんの口の相談かと思ったら、相変らずだね。喜久枝女史も遂にバラ狂になったね。」と五年前と同じ様に話を始めました。

「さて今更バラの種類からではあるまい。すぐ本論に入るか。好みもあることだし、いろいろと花の種類も覚えたことだし切出しは難しい。先に喜久枝女史の希望から聞くかな。なに色別にだつて、では順序を追って黒から始めるか。」

「バラの色とファッション界の流行は一致するといわれているが、最近黒いバラとしては、喜久ちゃんのところにもあるボンヌイ以来すすめるべきバラは今のところはなかね。丈夫だし、色がすこしくどいという人もあるが、作り易く花付きも良く、花の形も剣弁の高心咲で本当にバラの花らしい花だ。黒としては本種をすすめるよ。」

赤色にはいろいろと最近話題の花が作出され、カタログを賑わしているが、赤の傑作としてはフランスというよりは世界のデザインナーとして有名だったクリスチャン・デオールに捧げられたといわれる。仏のメイヤンが一九五八年に発表したクリスチャン・デオールだね。久し振りに見る赤の銘花だ。まだ知らないなんてだめですね。これは是非植えないなよ。色はエナ・ハークネスを更に明るくした真紅色で、剣

弁咲き、一目ぼれする新花だよ。花壇に植えてよし、ステムも長いので切花によし、丈夫な作り易い花だ。すこし高いようだが、たいした事はないよ。ぜひ一本手に入れるべきだね。

このほかに赤では、P・D・シュネローデルが今後のバラとして期待されるね。ドイツのホルデス氏が一九五九年に発表した深紅色の大輪で、樹勢もよく伸長力も旺盛で芳香が有り、ガーデンローズとしては有望だろうがね。ただ前者に比較して花持ちがすこし悪いように思われるが、人によつてはクリスチャン・デオールよりはスマートだという人もいるよ。今年に叔父さんのところの花を見てからきめてもよいと思うよ。

また赤にもいろいろとあることはすでに知っている事だと思ふが、朱赤色ともいうか、この色は最近の流行色で、ソラヤ、ジョリーマダム等がこの色の花だね。ソラヤは色も美しく、花も大変大きく、丈夫で作り易い花だ。喜久枝女史のバラ園にもぜひ入れておきなさい。ジョリーマダムはソラヤに比較してあまりよくないね。無理をして植える花ではないよ。このほかエルキャプタン、リーベズゾーベル等と赤の新花も発表されているが、昨年植えたばかりなのではつきりしたことはないね。むしろ前にもどるけれども、黒いバラのジョセフィン・ブルースは樹は横張りで、花も大きく丈夫なバラで、花の色は何時迄も黒く、ちょっと面白い花だ。植えるところがあつたら一本くらいはよいだろう。赤ですすめ

られる花はこのくらいだろう。つぎは順序として桃色か。しゃべりすぎたのでのが乾いた。お茶でも飲むか。」と煙草に火をつけながら桃色のバラに話しを移す。

「桃色のバラもいい花が大分発表されているよ。日本人は桃色というとなにか敬遠し勝ちだけれど、丈夫で美しい花が多いね。先ずアンレッツはあちらこちらのバラ会のアנקケートを見ても、常にベスト一〇に入っているくらい、美しい花型を持ったバラだ。上品な色、剣弁の高心咲のこの花をぜひ植えないさい。育ちもよいし、また作り易くしかも花付きのよい桃色のバラとしては、クイン・エリザベスを推奨するよ。この花は正確にいうと、グランジローラブル系の花であつて、花がやや小型だけれども花付きもよく、花型も万人向、色も美しいね。誰にでも奨められるよ。喜久江さんも皆にすすめなさい。やはりこの系統の花にドイツのホルデス氏が発表した、バレーというのがあるが、この花も丈夫で作り易く花付きもよく、万人向きだね。またマーガレットというのがあり、桜色というか、香もよい型のよい花だ。余り一般には知られていないが、入手できるようなならば入手の方がよいと思うよ。このほかにもエデンローズとか、コンフィダンとか、いろいろとよい花もあるけれど、皆な植えているだろう。最近話に出てくるピンクピースは、植えて見たけれどなにかちょっと物足りないという感じだね。余りすすめられないと思うが、これは叔父さんの意見だよ。」

また純桃色とはいえないかも知れないが、ローズ・ゴチャールというのがあるが、花型は丸弁だがよく咲くし、色あせもせず、丈夫な作り易い花と思うが、桃色はこれくらいにして、黄色に移ろう。

黄色といつてもいろいろあり、純黄色とか橙黄色とか、橙色等と分かれるが、最近では橙黄色によいのが出てくるね。例えば関西の伊丹バラ園の作り出した天津乙女は剣弁の大輪で花付きがよく、常によく咲いており、香りも高く、ガーデンローズとして評判が高いバラだ。今春は最高価格が取り引きされているが、一度花を見た方がいいなあ。また、シャントレー（シャントレー）も今春発表されるバラでは優良種にぜひあげなきゃならない花の一つだ。色は黄褐色を帯びたオレンジ色ともいうべきかな。剣弁花だが、開花し花弁が反転した時の花の姿は、筆紙ではいい難しいうところかな。ぜひ共植えておくべきだね。このほか橙黄色としてはすこし古いが、タイス、ボーデ等が良花の一つだよ。

つぎに純黄色としては、ゴールデン・マスターピースが最近はずい分植えられたがこの花は持っているね。新しいところではアーレン・フランシス、イソベル・ハークネス等が濃黄色のバラとしては花の色、型共にすぐれていると思うけれどもどうだね。マスターピースもなにかまとまりがないような気がするし、また、あっさりともいおうか、黄色の花にグリスビーというのがある。色もどくなく、樹も丈夫だし、花付きも多く、花型もよいので、すすめた

くなるな。

黄色としてはこれくらいのところかな。どれ一服するかな。どうだい疲れないか。さてつぎは何の色にしよう。

すこし方向を変えて覆輪系のバラに話しを移そう。有名なのは色と天狗さんはケチをつけるかも知れないが、ピースだよ。その後この花に変わるべき花はないくらいだ。もう一本くらい植える必要はあるのではないかい。最近新しいところでは、ドイツのホルデス氏が作ったホルデスパーフェクターがあるが、発表された時はピースに変わるとさえいわれたがどうかね。たしかに丈夫だし、多花性でもあるし、整った剣弁花であるが——。色は白色にはつきりとした桃色の覆輪だ。更に新しいところではガーデン・パーティ。ちょっと淋しいけれども可愛らしい花だ。色はクリム色に細いピントの覆輪のあるバラだ。なんというか、花壇植えのバラとしては一株はいるね。このほかにもリナ・ヘルホルト等とかあるが、まだ花を見てないので、なんともいえないな。

次に白いバラだけれども、白は難しくね。しかし昨年あたりから売り出されているジーン・ブライドは最近の白バラとしてはいいね。純白とはいえないかも知れないが、乳白色系のこの花は余り大きくならないが花付きもよくしかも丈夫だね。ぜひ植える事だ。またフロリバンダローズにも白としてよいバラがやはり昨年から出たよ。花も大きく丈夫だ。名前を後廻しにしたがその名はアイポリ・ファッシュン。ぜ

ひ植えなさい。

このほかの色としては、珍しいところでは紋りがある。紋りとしてはモダンタイムスが最高だと思う。真赤な肉色にはつきりとした白の紋りが浮び上がったこの色はバラ花壇の中で異彩をはなつてしよう。最近やかましくいろいろと話題にあがるバラの一つとしては、いわゆる青バラがあるがまだまだだね。小豆色としては成育もよく花型の美しいライラックタイム等が良花と思うが、最近ではモウヴ二号（トロイメライ）、スターリングシルバー等がだんだん青バラに近づいてきたがね、どうしても植えなければならぬというバラではないね。

どうだいそろそろ聞きあきたのではないかね。最後にフロリバンダローズとつるばらについて話してみよう。フロリバンダローズは、これらの花にも最近いい花が次から次へと出てきたね。また植える人もこの系統の花のいいところを見出し出て来たのかも知れないが、植える人も多くなった。名前だけあげていこう。赤から始めるか、リリマルラン、フージャリア等は花付きもよく美しいね。また朱紅色としてはコンチエルトは樹もよく伸び、フロリバンダローズとしては欠かせない名花だ。また単弁の花を面白いと思うが、コロリコの改良種のサラバンド等は入手できたら入手すべき花の一つだね。黄色も最近ではいろいろとあるが、リモサは花は小型だけれども鮮黄色の美しい花だ。またゴールド・シエルも黄色としては欠かせないね。桃色にはいいのが

なくてね。白としてはさつき話したアイポリ・ファッシュンがよい。叔父さんがすすめるフロリバンダローズとしてはこれくらいかな。

最後に蔓ばらをすこし説明しよう。朱の中輪花としてはダンスドフューが寒いところでもよく伸び花付きもよい。安心して誰にでもすすめられるのはこの花位だよ。ハイヌーンは咲いているかい。ダンスドフューはハイヌーンよりもよく伸びるし、また花付きもよいね。花はすくなくとも雄大なつるばらといえどエデンローズを奨める。この花は、HTのエデンローズの枝変わりであって、実に太い枝がよく伸びる。花は濃い純ピンクで大きく、まあいつてみれば桃色のピースというところだね。このほかにもいろいろとあるけれど、前にも話したように寒いところでは、四季咲系統のつるばらはどうも育ちにくいので、その内に調べておこう。急いで話したのでわかりにくい点もあったかも知れないが、わからないところはまた聞きにおいで。話中に夢中になって入れたお茶もさめてしまった。新しくいれかえよう。」

と叔父さんは話を止めて、お茶を入れながら新しい煙草に火をつけました。喜久枝さんも叔父さんの説明を聞いてどうやら今春の計画がおぼろげながら胸の内にできたようです。日が長くなったといえ、いまだ春始め、話しがすんだ時は外は大分暗くなっており、叔父さんのつけた煙草の火が非常に印象的に喜久枝さんの目に映じた事でしょう。

（雪印種苗・営業部）